ASOSA

留学生の声

弘前に留学して

弘前大学　人文学部特別聴講学生

マッキンタイヤ　ディミトリ　（ニュージーランド）

「日本で勉強したい。」１３歳の時、つまり、初めて日本語を勉強した時、日本で勉強したいと思っていました。言語を勉強するために、毎日聞き、話し、読み、書きをすることがいいですが、海外で勉強する方がさらにいいです。高校生の時、千葉県にホームステイをし、２０１４年の夏休みに東京に行きましたが、留学生になることができませんでした。しかし、青森県の生活のおかげで、日本で勉強することの夢が現実になりました。

郷里のニュージーランドのオークランドの生活と比べると、弘前市の生活は気安く、ゆっくりのです。弘前市の人はとても暖かく、やさしいし、町は安全だし、地域や自然は美しいし、公共料金は安いです。オークランドの気候が熱帯国の気候みたいなので、弘前市の気候は厳しい冬ですが、楽な夏です。大学を卒業した後は、弘前市みたいな町に住みたいと思っています。

留学生活もとても気安く、ゆっくりです。確かに、日本に来た目的は日本語と日本の文化を勉強することなので、授業が全て日本語や日本の文化についてです。日本語の授業は普通ですが、文化の授業は不思議であり、新しい興味があることを見つけました。例えば、文学で、日本の歴史や日本の視点から第二次世界大戦や近代史などを勉強していました。

一番面白い勉強は津軽地域のことです。インターンシップで津軽弁を勉強できましたが、弘前大学の授業の中で、津軽地域の歴史や文化を学びました。イタコやオシラサマや三味線の歴史など聞いたことがないことを勉強しました。前から興味があったアイヌやアイヌの歴史も勉強しました。一番好きな津軽の授業は津軽の芸術の授業であり、三内丸山遺跡、津軽塗、こぎん刺し、藍染め、そして私に一番大切な、ねぷたを勉強していました。

ニュージーランドにはなくて、歴史に興味があるし、日本の文化の中で一番好きなことは日本の祭りであり、一番好きな祭りは弘前のねぷたになりました。『三国志演義』や『水滸伝』という本にも、視覚芸術にも興味がありますので、確かに、この本と視覚芸術を結びつける祭りは大好きです。しかし、ねぷたの中で好きなことはそのことだけではありません。伝統的な祭りは両三日に参加しますが、ねぷたの場合は１ヶ月に間参加しました。最初の提灯のために絵を描きから、近所の人は一緒にねぷたの練り物を準備し、毎日太鼓と笛の練習を聞き、最後のねぷたパレードの日まで、ねぷたは身内だけではなく、全市民と合わせます。

ほぼ一年間弘前市に住んでいるので、弘前にも弘前の生活にも慣れました。一年しかありませんでしたが、長年に住んでいると感じており、弘前市と青森県は自分の郷里の誇りみたいになりました。日本に旅行したい人におすすめのところであり、大学を卒業してから、弘前市に住むことを望んでいます。

ASOSA

留学生の声

私の日本留学

弘前大学人文社会科学研究科１年

朴　歓（中国）

弘前に来てから二週間ぐらいのことである。手続きのことでバスに乗って行こうと思って、チューターから大学正門の前にバス停があることを教えてもらった。正門にはたくさんの学生がいた。そこで一緒に待っていたらすぐバスが来た。弘前では初めてのバス体験だったのでなんか不安になって、バスに乗る前に運転手さんに「〇〇に行きますか」と聞いたら、「〇〇に行きますか？はい、行きます」という返事があった。バスに乗ってしばらくしたら運転手さんの声が聞こえた「〇〇ですよー」。運転手さんに挨拶してバスを降りた。その後、なんかおかしいと思いながら（そういえばそのバスには運賃箱がなかった）そのバスをみたら、「モータースクール」という大きい字が目に入った（その時は、それが何を意味しているのか分からなかったので、辞書で調べてみた）。運転手さんは見知らぬ女の子を助けてくれたのである。弘前に来て一年、初めての一人暮らしになれるまで、その運転手さんのように助けてくれる優しい人たちがまわりにいたから、いまの私がいるのではないかと思う。

私が留学先として日本を選んだ理由は２つある。ひとつは大学３年生のとき、日本のウェブサイトを見て、NGO が海外ボランティア活動で、発展途上国の十分な教育をうけることができない子供達に資金や物品、教育機会の提供、地域開発事業等の活動をしていることを知ったことだ。この記事を読んで、将来、自分もボランティアの一員として活躍したいと思った。二つ目は、異文化共生のあり方について学びたいと思ったからである。私は中国生まれだが小学校時代は韓国で過ごした。その頃から異文化接触を経験し、異文化排斥も経験した。その後、異文化共生に興味を持つようになり、日本の大学院で人類学を学ぶことを決めた。私は中国で日本語を修めたが、日本において自分の言語能力を鍛えなおし、さらに社会調査法を含む基礎知識・技術を学びたいと思っている。

弘前大学に入学してから、留学生向けのイベント（世代間国際交流、ねぷた祭）や、地域広報プロモーションへの出演、花火大会のボランティアなどに積極的に参加している。その他には「ハングル会」という日本人を対象とした韓国語サークルにも参加している（当初、青森県国際交流協会が行ったことがきっかけで結成された韓国人の留学生が日本人に韓国語を教える会である）。イベントに参加することは、単に地域の日本人と留学生、留学生と留学生が触れ合うことではなく、互いの違いを受け取ることで「間違いではなく、違い」ということを体験できることに気づいた。

弘前の美しい風景、人々の優しさ、新しい出会いなど、そのすべてが一生忘れられない思い出になることには間違いない。留学先として弘前を選んで本当によかったと思っている。

ASOSA

留学生の声

憧れであった日本

青森公立大学　経営経済学部　経営学科１年

李　庭侖　（大韓民国）

青森市に留学したきっかけは、今年で 20 周年を迎えた青森市と韓国平澤（ピョンテク）市の交流事業の一環である留学生受入制度でした。この制度を志望した理由は、以前から憧れていた日本で勉強したいと思ったからです。

これまで海外に興味があり、世界の中でも経済的に発展している日本に行ってみたいと思っていました。高校の頃に友達と初めて新潟に行って以来、東京、大阪、京都など色々なところを旅行しながら、東京は日本で一番大きい都市であること、大阪や京都には東京と違う特徴や文化があることなどを知りましたが、さらに深く日本を知りたいと思い、日本の大学を目指すようになりました。

その後、私の地元平澤市と青森市が学生交流を行っていることを知り、当時受験生であった私は青森公立大学の留学生に挑戦することにしました。周囲では韓国の大学も合格したらきっと日本行きを悩むだろうと言っていましたが、私の心は既に日本に傾いていました。書類選考に合格した私は、冬に他の受験生とともに青森で試験を受けました。1ヶ月後に最終合格を知った時の気分は最高でした。

合格した私は４月の入学式に合わせて日本に来ました。勉強したいと思っていた日本で本当に勉強することになり、当時は信じられませんでした。そして、せっかく日本で大学生になったのだからと思い、自分なりに日本でやってみたいこと、日本でやってみなければならないこと、日本でしかできないことを考えてみました。

日本でやってみたいことは旅行でした。旅行が好きなので、これまで訪れたことがある場所もそうでない場所も、色々な場所に行ってみたいと思い、青森市はもちろんのこと、弘前や函館、札幌を旅行しました。

また、日本でやってみなければいけないことはサークル活動です。日本では中学や高校には部活、大学にはサークルがありますが、韓国ではそういった活動はあまり活発ではないので、やってみたかったことの１つでした。今はボランティアと語学のサークルに入って、真面目に活動しています。

そして、日本でしかできないこと、もっと厳密に言えば日本の中でも青森でしかできないことは、ねぶた祭りを見ることです。ねぶた祭りはあまりにも有名で、韓国でも聞いたことがあるほどでした。実際に青森に来てねぶたを見るだけではなく参加することができ、とても貴重な経験となりました。

青森での大学生活は私の人生の中で本当に大切なことです。上記の他にも、市役所の交流活動を手伝うなど、憧れの日本に来たからには積極的に地域に関わろうと思い、色々なことに参加しています。これからも頑張りますので、応援お願いします！

ASOSA

留学生の声

「日本での留学生生活」

北里大学大学院　獣医学系研究科獣医学専攻博士課程 2 年

ダンマハス　ドアンラッツ（タイ王国）

私はタイから来た、ダンマハス　ドアンラッツです。年齢は 26 歳です。

北里大学大学院獣医学系研究科獣医学専攻博士課程 2 年生で、所属は獣医生理学研究室です。

私は青森県十和田市に来て、2 年になります。私が青森県で経験したことを簡単にご紹介します。

まず、私は青森県でおいしいものをたくさん食べました。例えば、りんご、さくらんぼ、いちご、ホタテ、馬肉、ヒメマス、八戸せんべい汁です。どれもとても美味しかったです。

また、青森の美しい観光名所にもたくさん行きました。十和田湖、奥入瀬渓流、蔦沼、弘前城、岩木山神社、三内丸山遺跡、蕪島などです。とても素敵な場所ばかりでした。

お祭りにもたくさん行きました。青森ねぶた祭りではハネトで参加し、それは新鮮で楽しい経験でした。また、十和田市の花火大会、秋祭り、春まつり流鏑馬もとても印象的で、すっかり十和田の虜になっていました。

十和田は、みんな優しく、そしてとてもきれいな街です。官庁街通りは特に美しく、四季折々の景色が私たちを楽しませてくれます。春にはたくさんの桜が咲き見事ですので、どうぞ見に来て下さい。

また、私は日本の独自の文化に、とても興味をもっています。これまでに、私は生け花のクラスや青森県弘前市の留学生文化交流キャンプにも参加しました。キャンプではたくさんの日本文化を知ることが出来ました。

北里大学の人は皆親切です。ある日、私は大学の守衛さんにとても驚かされました。彼はなんと私と友達に、タイ語で話しかけてくれたのです。彼がどうやってタイ語を学んだのかわかりませんが、私にとってうれしい出来事でした。すごいです！

最後に、私の周りの人たちに感謝の気持を伝えたいと思います。日本の生活で困っているときは、いつも助けて親切にしてくれる、研究室の先生方や学生さんたち。また、日本語のレッスンや、私たち留学生を色々な場所へ連れて行ってくれる、ボランティアの方。本当にありがとうございます。北里大学にタイの留学生が来るようになって、10 年近くなります。タイは遠いですが、私に不安はありません。皆さんに本当に感謝しています。

ASOSA

留学生の声

八戸の印象

八戸工業大学　大学院工学研究科　社会基盤工学専攻　博士後期課程

刘　耘（中国）

日本、太平洋西岸に位置する美しい島国。日本と言えば、美しい桜の花、豊富で新鮮な美食、それに青々とした大海原などを思い起こさせる。2015 年 4 月私は幸いなことに八戸工業大学の博士課程にいる。八戸には多くの日本の典型的な特徴や印があり、日本についてとりわけ八戸について深く美しい印象を持った。

八戸の印象の八戸工業大学

八戸工業大学は日本の東北地区唯一の私立の理工系大学で、略称「HIT」という。八戸工業大学のキャンパスは清潔で学術的雰囲気が満ちており、教師は謙虚で温厚である。学生は互いに敬愛しあい、キャンパスでの活動は豊富かつ多彩である。とりわけ毎年春のキャンパスの桜は雲か霞のごとく或いは雲か雪のごとく競って咲き、その場に身を置けば、花の香りと薄紅は全身に沁みわたり、世俗を離れた桃源郷に入り込んだかのようだ。とりわけ特筆すべきは、桜はあたかも互いに相談でもしたかのように同時に開花し、同時に大地に帰ることで、花弁が一斉に舞う頃はしばしその場を立ち去り難い。

八戸の印象のすし

八戸は青森県の工業生産高が最大の都市で、同時に水産都市でもあり、その水産製品生産量は日本全国でも屈指である。このようにたいへん恵まれた自然条件や八戸人の勤勉と聡明さによって、食材が豊富で新鮮な寿司となった。初めて八戸に来たとき、日本の友人のご招待で、ほとんど天然素材で、凝った取り合わせの色彩豊富な、八戸の寿司のおいしさを初めて体験した。魚、蟹、魚卵、季節の野菜など、シンプルな調理で豊富な色彩と食材本来の味を残している。その味は豊富なあまり味わいきれないし、姿を見るのも楽しい。寿司は日本の美味の上位に位置する。

八戸の印象の蕪島と種差海岸

八戸は太平洋西岸に位置する美しい街である。蕪島、種差海岸などは更に心惹かれるところであり、蕪島はうみねこの繁殖地で、毎年繁殖の季節になると、島のうみねこは一大集団を形成し、島の頂上だけでなくその周辺でもどこでもかわいいうみねこが島に棲息、繁殖し、子孫を育てていて、そっと近くを歩いても泰然とし、また、常に群れをなして飛ぶ姿は大空に引き立って、たいそう美しい。

種差海岸は八戸市でも一度は行くべき所である。種差海岸には広い草地があり、緑濃い草が太平洋の波打ち際までずっと続いている。春から秋まで浜辺の花々が咲き誇っている。種差海岸に降り立つたびに、果てしない青い海原や海鳥の鳴き声、青空に点在する白い雲、ふとかつて見たことのない海岸風景に、時間の存在すら忘れ、種差海岸に立ち寄った僅かな時間に人はここがいたく気に入ってしまうことに気づかされるのだ。

ASOSA

留学生の声

青森県で三年間の生活

八戸工業高等専門学校　物質工学科　第５学年

チャントンシー　スックサワン（ラオス）

青森県は日本の本州最北端に位置する県である。北の方にあるため、冬の時は雪が多くて寒いところです。青森県にはリンゴがいっぱい採られるので、リンゴが青森県の名物となっております。

私は 2012 年 4 月に来日しました。1 年間東京で日本語を勉強してから八戸に引っ越ししました。最初八戸に来たときは雪がまだいっぱい残っているので非常に寒かった。アジアからの人なのでこのような寒さはあったことないためその時は大変だった。八戸は東京と全然違いびっくりしました。東京で 1 年間いたので八戸に来て高い建物がないし、電車も少ない、どこか行くときはバスがよくつかわれる。2013 年 4 月から高専生活が始まった。

まず、一番考えなければならないことはどういう風に勉強するのか。専門科目だけではなくて日本語能力の問題もあり、とても心配だった。しかし、本当の授業を受けると前の考え方が変わって、高専の先生方は留学生に対してとても優しかった。授業ではわかりやすい言葉を説明し、黒板にも説明文は丁寧な漢字を書いてもらって、勉強がわからないところを先生に聞きに行くと丁寧に教えてもらった。クラスメートもみんながいつも笑顔で話しかけて、勉強も助けてもらった。

私は学校の寮で住んでいます。自分の部屋から教室まで約 5 分歩くとても便利である。寮は留学生と日本人が一緒に住み、留学生は自分で料理作って食べる。寮で留学生が多いため、いつもみんなが一緒に自分の国の料理を作ったり、食べたりする。それだけではなくて、時々集まって勉強のことを話したりすることもある。ですが、寮はスーパーから離れるので買い物はちょっと不便、特に冬の時は大変だった。

さらに、学生は学校の勉強だけは十分なので、学校出て自分を世界勉強することも大事と思っています。青森県は毎年、「交流会・体験型取材」を行います。この交流会は留学生にとってとても良いです。この交流会は毎年 5 回くらい行い、各回は青森県内に違う場所へ行って体験を行った。例えば、農家体験、リンゴもぎ体験など。この交流会はただ遊び、他の留学生と交流ではなく、日本人の生活も見られるし、日本の文化も勉強できて、青森の観光所も発見できて、良い経験をもらいました。他には青森県の祭りもとても有名です。一番有名の祭りはねぶた祭りである。ねぶた祭りは夏に青森市や五所川原市などで行って、日本人も外国人もいっぱい見に来る。

最後に、私は今年 3 年目青森県に居て、勉強したり、遊んだりした。それで日本の文化、ルール、町などがよくわかって来た。国に帰ったら、必ずラオス人に青森県のことを紹介するつもりです。青森県は面白いこと、美味しい物がいっぱいある、どこ行ってもまた戻りたい。私は来年からまた引っ越しするのですが、時間があればまた青森県に遊びに来たいと思っています。

ASOSA

留学生の声

青森の貴重な経験

青森中央学院大学　経営法学部３年

カンナーティコーン　ピヤラット（タイ）

タイのバンコクから参りました。カンナーティコーン　ピヤラットと言います。ニックネームはバンブーです。現在青森中央学院大学の 3 年生で経営法学を学んでいます。なぜ留学先に日本を選んだかというと私は高校一年から日本語を勉強しています。初めはとても難しかったが頑張っています。私の高校は筑波大学と繋がりがあり、筑波大学生（日本人）を私の家でホームステイとして受け入れました。高校二年生の時にはタイ全国で日本大使館主催の日本語スピーチコンテストに参加して、優勝することができました。表彰としては 2 週間の日本滞在で、初めて日本を良く知ることができ、とても感動し、日本の文化や習慣などに関心を持ち、日本で生活してみたいと思って、日本に留学しに来ました。

青森に来て、三年目になりますが、これもすべて意味があると思っています。というのは、実は東京の大学も受けて、合格していました。しかし私の通っていた高校と青森中央学院大学が提携していて、青森中央学院大学も合格しました。聞いたことがない青森県の情報を調べて、雪は壁みたいな高さ！　帆立とリンゴが有名！　自然がきれい！　外国人に対してあまり慣れていないという情報がいっぱい出てきました。青森はとても静かなところなので、勉強にいいし、物価が安いし、タイと日本の架け橋として青森県民にタイのことやタイの文化などを広めたいと思って、青森に来ました。

授業は日本人の学生と一緒で全部日本語で勉強しなければならないし、家族と離れたことがないし、最初はとても寂しくて、大変でしたが、私は “努力を続ければ成功が待っている” というモットーがあり、何があっても、諦めないで、全力で尽くせば、絶対乗り越えられると信じています。日本の生活にはだんだん慣れてきて、今はとても元気で暮らしできるようになりました。私の努力で、そして新しいことを挑戦するのが大好きなので一年生の時には青森中央学院大学の日本語スピーチコンテストに参加しみて、全学年の中で第二位の優秀賞を勝ち取ることができました。

ここから、私の将来が大きく開いていきました。青森にいる外国人として青森県の観光地や食べ物を紹介する「ガイコクジンが行く！東北トラベラーズ」というテレビ番組の案内役リポーターに選ばれました。３回も撮影しました。これは、青森県はもちろん、日本全国と台湾にも放送されました。また、今まで色々な活動やボランティアをやりました。例えば、小学生と高校生にタイの文化と料理を教えました。青森にグリーン・ツーリズム体験で来たタイ人に通訳者として手伝いをしたりしました。それは、とても小さな一瞬の出来事でしたが貴重な経験になりました。社会に出る前の大事な訓練を受けました。日本、そして青森への留学経験を通して、タイ、日本、青森の経験を通じ、将来は国際的に活躍できる人材になりたいと考えています。

色々な経験を通し、「青森に来て本当に良かった」と強く感じています。毎日が忙しく、「大学の授業やさまざまな有意義な活動との両立が大変」と思うこともありました。しかし、これから社会で活躍するための訓練だと思っているので、これからも全力で挑戦していきたいです。

ASOSA

留学生の声

青森はリンゴだけじゃない

青森中央学院大学　経営法学部３年

チャン　クンイー（マレーシア）

来日する前にマレーシアの短期大学を卒業して、銀行員や小学校教師を務めていました。留学したきっかけは東京に留学していた友達がマレーシアに戻り、いろいろな日本の面白いことを教えてくれて、自分も人生で一度留学したいなと考えました。それに、私は人と交流することが大好きで、マレーシアの短期大学在学中に日本からの交換留学生と話したことがありました。言葉もちんぷんかんぷんでわからず、何とか交流はできましたが、その時に自分は四ヶ国語も話せるのに、意志の疎通ができないことに衝撃を受け、逆に日本に留学したいと思いました。

その友達を通して、日本語の勉強を始め、五十音や基本文法を習いました。その後青森中央学院大学に留学することに決めましたが、青森について全く知識がありませんでした。日本人の先生に青森の事を尋ねると、「青森はりんごだよ！」とおっしゃいました。

その三か月後、私の人生初の留学生活が始まりました。時は 2013 年９月です。ちょうど秋の時期に入り、南国から来た私にとっては多少の温度差でも過ごしにくかったです。冬に入って状況は更に悪化し、３９度の高熱を出しました。青森は山々に囲まれているので、冬は寒いし、日没はどこよりも早いし、その時は本当に「青森を出たい！」という気持ちが強かったです。

日本に来て人生初のことがいっぱいでした。例えば、地震や雪や紅葉などです。しかし日本は面白いですが、刺激が少ないと思いました。そんなある日学校のボランティアに応募したことをきっかけに、人生の青森生活の新しいページが開きました。それは青森地域活性化協会主催の自転車イベントで、青森市内から十和田湖まで一周するライドでした。自転車に乗って、とんでもなく高いところまで登るのは一度も考えたことがありませんでした。しかしそのイベントをきっかけに、登りの苦労や、一緒に参加した人達に魅力されて、私も自転車に乗り始めました。

これを機に私も大学初のサイクリングサークルを作りました。部員は１４人です。自転車に乗って、青森は面白いところだなと思い始めました。車を持っていない私はほぼ毎週自転車で酸ケ湯、浅虫、夏泊半島、弘前などに行っています。青森の観光地は大体離れていますので、自転車で移動して、路上の風景やグルメがいっぱい堪能できるのは青森ならではの魅力です。現在青森県庁の青森観光戦略課も青森サイクリングツーリズムに力を入れて、全力で全国に青森の魅力を発信しています。私もそれに協力しています。

私は自転車でほぼ青森県内の観光地に行ってきました。一番つらかったのは青森市内から大間までのライドです。朝六時に出発し、帰ってきたのは深夜十二時の３６０キロのロングライドです。ライド中雨に降られたり、風に吹かれたりしても、仏ヶ浦やマグロ一本釣りの大間が堪能できてそれはなにより思い出となりました。

私は現在、サイクリングガイドになるよう頑張っています。来年 2016 年の北海道新幹線が開業すれば、全国からの自転車観光客がもっと増えるでしょう。私も青森の住民として、青森の魅力を全国の人達

に見せてあげたいと思います。

　青森はリンゴだけじゃなくて、生産量日本一のにんにくとカシス、世界遺産の白神山地、太宰治の故郷芦野公園、三陸復興国立公園の種差海岸、風の岬竜飛崎などがありますよ！

以上